



財団
法人 人間自然科学研究所

歴史に盲目な人間は、現在に対しても盲目である

ワイツゼッカー

愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ

ビスマルク

理念なき経済は罪悪 経済なき理念はたわごと

一家を廃して万家を興す

二宮尊徳

出版記念講演会

日中韓英四カ国語対訳

中国古典名言録 発行者 小松昭夫 竹島=独島問題入門 著書 内藤正中

混迷の時代、出雲から陽が昇る

2009年2月22日



財団
法人

人間自然科学研究所



環日本海地域はアジアで最も進んだ近代文明地域
です。しかし、歴史的背景から竹島独島領有権・海洋
呼称・強制労働・従軍慰安婦問題に代表される抑制さ
れた対立・怨念エネルギーを生み出し続けています。

このエネルギーを止揚(アウフヘーベン)に活かし、
朝鮮半島の対岸から世界に先駆け共生の文化を生み
出すときを迎えました。

グローバル時代に生まれた閉塞感を打開するには、
対立の文化の上に繁栄、行き詰った文明から、共生の
文化の上に華開く文明への転換以外にないと思われ
ます。

世界的金融の混乱から社会混乱が懸念される状況に
なり、 朝鮮半島・日本列島の世界に果たす歴史的
使命に目覚めた人たちの叡智と勇気が試されています
。

私たちの20年にわたる取り組みと構想をご紹介しますので、皆様の積極的なご意見を心よりお待ちしております。

1. 世界・アジアの現状

長い間蓄積された社会システムの歪みから核拡散、地球温暖化が進行、さらにグローバル化した金融が動揺、食糧・エネルギー・鉱物資源の世界的高騰が始まっている。

アジアにおいても中国・インドに代表される目覚ましい経済発展の反面、衝撃的な金融調整局面を迎えている。その上、核拡散・貧困・食の安全・歴史問題等、多くの問題を抱えている。

本番 京都議定書 間われる実行力

サントリー空 飛田隆雄社長（サントリー）は、京都議定書の締結を機に、同社が排出削減に力を入れる。飛田氏は、同社が排出削減に力を入れる。飛田氏は、同社が排出削減に力を入れる。

排出量取引 導入で攻防

キャップ&トレード方式の排出量取引制度の仕組み。排出量取引の仕組み。排出量取引の仕組み。

排出量取引の仕組み。排出量取引の仕組み。排出量取引の仕組み。

米国発 世界同時株安

銘柄	前日比	高安率
105.42	-0.37%	-0.12%
117.12	-0.18%	-0.05%
470.70	-0.14%	-1.70%
49	-0.05%	-0.05%
17	-0.02%	-0.02%
18	-0.01%	-0.01%
43	-0.01%	-0.01%
53	-0.01%	-0.01%
30	-0.01%	-0.01%
44	-0.01%	-0.01%

米国発の株安が世界に波及。米国発の株安が世界に波及。米国発の株安が世界に波及。

福田首相が退陣

支持低迷、公明と麻生氏 年内解散強まる

福田首相の支持率が低下。福田首相の支持率が低下。福田首相の支持率が低下。

福田首相の支持率が低下。福田首相の支持率が低下。福田首相の支持率が低下。

下院、金融法案を否決

鉄鋼各社 鋼材値上げ交渉本格化

原料炭価格 3倍に 車・機械業界に打撃

鉄鋼各社は原料炭価格の上昇を受け、鋼材値上げ交渉を本格化。鉄鋼各社は原料炭価格の上昇を受け、鋼材値上げ交渉を本格化。

国	割合 (%)
豪州	61.1
その他	22.6
カナダ	9.6
中国	6.7

日本の原料炭輸入先 (2006年度、7345万トン)

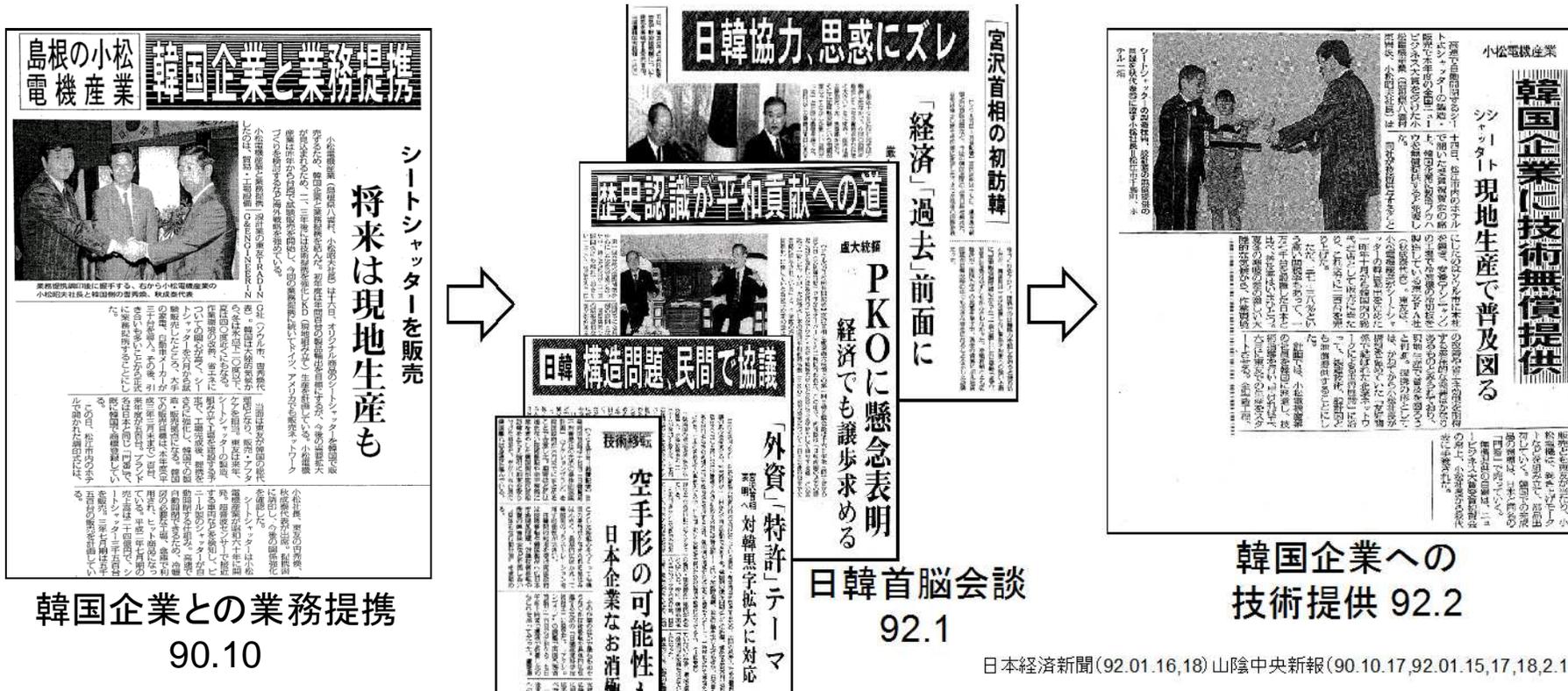
原料炭価格の上昇は、鉄鋼業界に大きな打撃を与えている。原料炭価格の上昇は、鉄鋼業界に大きな打撃を与えている。

2. 財団法人人間自然科学研究所のあゆみ

1992年2月 日韓首脳会談を受けて韓国企業へ技術無償供与

1992年1月に宮沢首相が訪韓、盧泰愚大統領と会談、従軍慰安婦問題に対する謝罪、さらに積極的な技術移転等に取り組むことを約束した。

消極的な日本企業が多い中で、韓国企業東友技研へ日本で2番目にニュービジネス大賞を受賞した地球温暖化防止に大きな役割を果たす技術の無償供与を、その受賞披露パーティーで発表した。



1997年6月 韓国独立記念館訪問・献花・寄贈

小松理事長は視察団を結成、韓国独立記念館を訪問し、日本人として初めて献花並びに寄付。



献花の様子



韓国独立記念館

1998年7月 大韓赤十字社に朝鮮民主主義人民共和国へ食糧支援金を寄贈

鄭周永現代財閥創業者が、牛501頭を朝鮮民主主義人民共和国に寄贈されたニュースを聞き、大韓赤十字社・鄭元植総裁に朝鮮民主主義人民共和国へ食糧支援金を寄贈



鄭周永現代財閥創業者の寄贈
1998年6月16日



寄贈を報じる記事
左:文化日報、右:韓国經濟新聞



寄贈式の様子
1998年7月7日 08.09 M.K-K

2001年9月 中国 抗日戦争記念館 訪問・献花・寄附

視察団80名を結成、日中戦争勃発の舞台となった中国北京郊外の盧溝橋を訪れ抗日戦争記念館にて献花、寄附。

また、棗荘・台児荘で孔子、孟子、郷土の治水の偉人・周藤弥兵衛翁、清原太兵衛翁の4体の銅像を製作する事に、中国画報協会 邢雁会長と調印。



抗日戦争記念館と献花の様子



盧溝橋



銅像調印式



2002年9月 中国棗莊 台兒莊大戰記念館 訪問・献花・寄附・銅像制作

棗莊・台兒莊は、米国から最新兵器を提供された国民党と共産党の国共合作の地で、陸軍松江第六三連隊が全滅した場所。

当研究所はこの地で孔子、孟子、郷土の治水の偉人・周藤弥兵衛翁、清原太兵衛翁の4体の銅像を製作。中国山東省政府の絶大なる支援により中国側3000名、日本側40名の参加者のもと、日本への銅像出発式が挙行された。



棗莊・台兒莊大戰記念館



銅像出発式



出発式の参加者



孔子像



孟子像



11

周藤弥兵衛像



清原太兵衛像

2003年10月 鳥取県の中国庭園 燕趙園に孔子・孟子像建立

2006年3月 西王母と八仙人大理石像を建立

2007年3月 孫子像建立

中国棗荘・台児荘で製作された孔子・孟子像は、鳥取県にある日本最大の中国庭園 燕趙園に寄贈。また大阪の事業家が所有されていた西王母と七福神の源流と言われる八仙人大理石像の建立を支援、さらに中国東莞市人民政府から贈呈された孫子像も燕趙園に寄贈・建立した。



孔子・孟子銅像建立式 2003.10

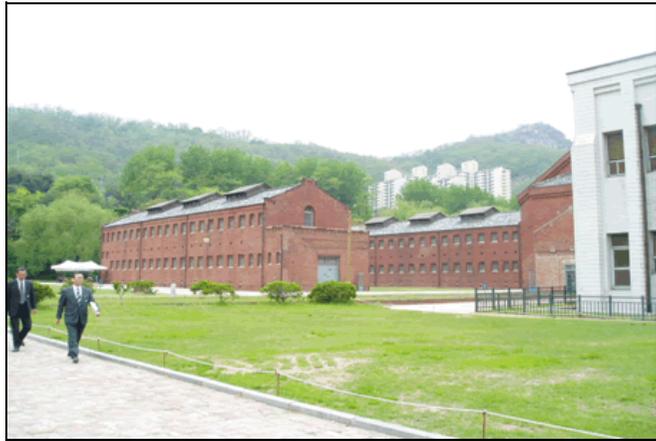


西王母と八仙人像建立式 2006.3

孫子像建立式 2007.3

2005年5月 韓国西大門刑務所歴史館・獄舎跡訪問・献花

島根県竹島の日制定によって緊張した日韓関係を当研究所は深刻に受け止め、かつて日本の侵略に立ち向い獄死した、柳寛順女史に代表される独立運動家を収容した西大門刑務所歴史館・監獄跡を訪問、献花。



前日に熊本県の明成皇后暗殺者の子孫と教育関係者の一団が韓国を訪れ謝罪

2005年9月 南京大虐殺記念館訪問・献花

小泉首相のたび重なる靖国神社参拝によって日中関係が最も厳しい状況下、30名の第7回中国訪問団を結成し、南京大虐殺記念館を訪問、犠牲者を追悼、献花。



理事長夫妻献花
中国新華社HPより



中国訪問団



小松理事長インタビュー
中国新華社HPより

第7回中国訪問団の南京大虐殺記念館の訪問・献花は、中華人民共和国駐日本国大使館のホームページや中国国営放送中央電視台で3回にわたり放送され、また新聞に掲載される等、大きな反響があった。

中華人民共和国駐日本国大使館
EMBASSY OF THE PEOPLE'S REPUBLIC OF CHINA IN JAPAN

中国語

南京大虐殺の犠牲者を追悼 日本企業界訪中団
2005/09/19

日本企業界第7回訪中団一行38人は18日、中国侵略日本軍南京大虐殺遭難同胞記念館を訪れ、犠牲者を追悼した。

団長の人間自然科学研究所の小松昭夫理事長をはじめ団員は記念館の追悼広場で献花、黙とう、平和の誓いなどを行った。

日本企業界訪中団が南京大虐殺記念館を訪れるのは3回目、小松団長は次のように語った。歴史の現実をはっきり認識し、中日戦争の歴史的背景を知るため、今回、記念館を訪れた。中国の歴史に非常に大きな災難をもたらした日本人の子孫として、最も深い謝罪の意を表明すると同時に、両国の子孫の将来と人類文明の進化のために、われわれは戦後の責任を負い、現実に向き合い、人々の知恵を集め、恒久的平和の事業のために共に奮闘努力しなければならない。

人間自然科学研究所は日本の企業界の一部の有識者が自発的に設立したもので、一貫して中日両国の平和事業に力を尽くしている。より多くの日本人が歴史を正しく認識するようにするため、映画「永遠の隣国」を制作した。これは日本が中日両国の恒久的関係から出発し、歴史に対して責任を負う国としての理念をつくりあげなければならないと主張しており、大きな反響を呼んでいる。

小松氏は「隣人は選択できない。数千年の歴史の中で、中日両国は大部分の時間、平和的に共存し、近代になって不幸な事態が起きた。中日両国が中日関係の主流を見て取り、平和発展を堅持するよう希望する」と述べた。

南京大虐殺記念館の朱成山館長は次のように語った。ぎょうは「9・18」事変(柳条湖事件)74周年で、この特別な日に日本企業界の一行が記念館を訪れ、犠牲者を追悼し、彼らの誠意が示された。事実、日本では彼らのような多くの有識者が中日両国の平和友好のために奔走している。中日両国の民間交流の障害は歴史に対する認識であり、これらの平和を愛する人の働きかけを通して、両国人民の心の交流がより盛んに、より永いものになるものと確信している。

(南京9月18日発新華社)

[Suggest To A Friend] [Print]

中華人民共和国駐日本国大使館 著作権所有
http://www.china-embassy.or.jp

中華人民共和国駐日本国大使館HP

新華網

日本企業界一行祭奠南京大屠殺遇難同胞(組圖)

9月18日、日本人間自然科学研究所理事長小松昭夫在侵華日軍南京大屠殺遭難同胞紀念館內宣讀志願書。

新華網HP

人民網

日本企業界の視察団、南京大屠殺記念館で追悼活動

人民網HP

2005年12月 米国ハワイ・ホノルル「アリゾナ記念館」記念式典40名参加

真珠湾攻撃記念日の12月7日アリゾナ記念館を訪問、「平和記念式典」に参加。
戦争犠牲者に献花・寄附。



献花の様子



戦艦ミズリー号の甲板

2006年10月 韓国釜山銀行・木曜学会主催で釜山市庁舎国際会議室で講演

「釜山経済の発展模索のための専門家と市民討論会」に小松理事長が招かれ、
「グローバル時代における経営者マインド」について基調講演。



講演会場



小松理事長講演の様子

2006年3月 平和環境健康特別区申請 特別シンポジウム

島根県松江市において、平和環境健康特別区申請を記念して、韓国・中国・米国・日本の各分野の識者による講演会・座談会・記念パーティを開催。



聴講者の様子



座談会



記念パーティー



中国南京で開催された南京国際平和フォーラムにおいて、「世界平和は『和譲』から－日常生活を和譲文化に－」と題して講演。世界の華僑、平和研究者、運動家、ジャーナリストが参席する中、世界は「対立」「恐怖」「人口問題と資源」により、衰退か新たな繁栄かの分水嶺に差し掛かっており、和譲文化にそれを解く鍵があることを発表。



フォーラム・講演の様子

2006年11月 出雲大社で神有月 和譲平和フォーラム開催

食を通じた平和運動で、世界に400万人の実践者を擁するマクロビオティックの権威、久司道夫先生と、日本文化研究の権威でもある、エリ・コーヘンイスラエル大使をお迎えし、出雲大社社務所にて開催。



本殿参拝の様子



久司道夫先生講演



エリ・コーヘン大使講演

2007年3月 韓国安重根義士殉国記念式典参列・明成皇后生誕地・陵墓訪問

安重根義士殉国記念式典に参列、献花。また明成皇后生誕地・陵墓を訪問。



安重根義士殉国記念式典の様子



明成皇后生誕地・陵墓

2007年6月 中国海南島強制労働跡地訪問

1939年日本軍占領後、終戦まで鉱山採掘の強制労働が行われた中国海南島を訪問。強制労働者1000人が生き埋めにされたと言われる朝鮮村を調査、遺骨を前に慰霊。



強制労働跡地・展示場

2007年12月 南京大虐殺記念館改築式典・フォーラム

展示面積10倍、敷地面積2倍に改築した南京大虐殺記念館の開館記念式典に招待を頂き参列。また式典後開催されたフォーラムでは各国関係者との意見交換を行った。



記念式典の様子

フォーラムの様子

2007年11月 オウトピア構想の拠点 慶熙大学校 訪問

国連世界平和年を提唱し実現させた趙永植学園長が創設された「慶熙大学校」を訪問。学園長のオウトピア構想について意見交換。宋錫源慶熙大学校教授の紹介を受け、この構想を実践する明るい社会をつくる運動(GCS)本部の趙正源総裁と面会、海南島の強制労働者遺骨回収・慰霊について相談した。総裁は翌日、国連事務総長と会見された。



慶熙大学校訪問時の様子



小松理事長との面会翌日に
国連事務総長と会見される
趙正源総裁

島根県松江市において、日韓の識者と市民が竹島独島について認識の共有、議論の場とするため、座談会を開催した。



リアルタイム日本海 2008.2.22

2008年3月 なぜ出雲から世界平和か 座談会

康熙奉 朝鮮民主主義人民共和国歴史学博士と安齋育郎 立命館大学
国際平和ミュージアム館長をお迎えし、財団法人人間自然科学研究所太陽ホー
ルにて、「なぜ出雲から世界平和か」と題して座談会を開催した。



座談会の様子 2008.3.28

2008年5月 韓国ソウル日本大使館前従軍慰安婦水曜アクションを見学

800回を超える元従軍慰安婦と支援者によるソウル日本大使館前での抗議活動に遭遇し、若者・子供たちを含めた抗議活動に世代間を越えた対立・怨念の継承を目の当たりにした。「生物学的な命」もさることながら「尊厳の命」が人間にとっていかに重要であるか再認識した。



日本大使館と警備の様子



抗議活動の様子

竹島独島領有権問題を抱える島根県において、歴史の事実と立場による認識の相違を共有し未来に活かすため、演劇「族譜」を観る会松江の会長を小松理事長が引き受け、500名の参加者のもと上演した。

秋田県立 土方与志記念 青年劇場

族譜

「姓氏改名」「皇民化政策」の真実とは？
朝鮮半島を舞台に「国家と文化のありよう」を問う。
東京公演の反響に「いま、全国へ！」

梶山季之×ジェームス三木×青年劇場が贈る話題作！

梶山季之=原作
ジェームス三木=脚本・演出

出演：青木大輔 / 上甲まゆみ / 葛西和雄 / 中谷源
広戸聡 / 高村朋 / 佐藤尚子 / 大木章 / 船津誠 /
武野善雄 / 榎本有紀 / 八代名菜子

2008年6月29日(日)
開演14:30(開場14:00)
島根県民会館・中ホール

料金：2,800円(全席指定)
大学生以下→2,000円(税込)

美術：石井敦司 照明：横田元一郎 音楽：藤岡隆
音響効果：船橋弘二 衣裳：宮崎博枝 舞臺美術：白井天
監修：高橋伸吾 演出：高橋伸吾 演出助手：高橋伸吾
製作：船橋弘二 製作助手：大塚寿朗 川田裕子



「族譜」を観る会 松江会長
財団法人人間自然科学研究所
理事長 小松 昭夫

■「族譜」上演にあたってのご挨拶

「歴史に盲目な人は、現在においても盲目である」竹島・独島領有権問題を単独に捉えるのではなく、近現代史のなかで総合的に捉え、制御された対立エネルギーを、世界で最も大きなテーマとなっている環境問題・健康障害の解決のエネルギーに置き換える。そのような想いから、「尊厳の命」をテーマとするこの演劇「族譜」を観る会松江の会長を引き受けました。

戦後60年が経過してから、アメリカ、カナダ、オランダ、フィリピン、EU議会で日本政府に対する従軍慰安婦への謝罪要求決議が可決されました。

被害・加害の歴史に関して認識の違いを共有し、怨念を総合的に捉え、止揚に導き、地球共生社会をつくるための資源として生かす智慧と勇気が問われています。古代日本の平和の発祥地ともいわれるこの地での上演を契機として、朝鮮半島とその対岸から世界に先駆け、恒久平和に至る共生の文化を生む人類史的役割を皆様とともに果たすことを通じて、郷土の発展を考えようではありませんか。

演劇「族譜」パンフレットより

※「族譜」とは、韓国朝鮮で一族の代々の当主が、家系図とともに、それぞれの時代のできごとを書き残し子々孫々に伝えるもの。

2008年10月第6回国際平和博物館会議協賛 「対立の文化から共生の文化へ」発表

世界の戦争と平和博物館が集まり、京都と広島を主会場に国際平和博物館会議が開かれた。研究所はこの会議を協賛、韓国より金鎬逸安重根記念館館長、宋錫源慶熙大学校教授を招待して同会議に参加。世界で唯一、学内に平和ミュージアムがある京都・立命館大学で、安重根と従軍慰安婦の尊厳の命について発表した。



安齋育郎・国際平和ミュージアム名誉館長が司会を務めた



金鎬逸安重根記念館館長。「大韓国人 安重根の東洋平和論」を発表



開会宣言 国際平和ミュージアム高杉巴彦館長



宋錫源慶熙大学校教授 日本研究所長。「平和は理想かーGCS運動を例として」を発表



小松昭夫研究所理事長。「人類の転換期における朝鮮半島と日本列島の地政学的役割」を発表



国内外からの聴講者、学生の参加も多かった

国際平和博物館会議のエクスカージョンとして、安齋育郎立命館大学平和ミュージアム名誉館長、金鎬逸安重根記念館館長、宋錫源慶熙大学校教授、李惠筠安重根記念館総務部長は、出雲和譲フォーラム「強くなければ生きられない 優しさがなければ生きる資格がない 対立の文化から共生の文化へ」に参加した。これにあわせ、研究所が仲介し、京都・龍谷大学に收藏され10年間展示がなかった安重根の遺墨、広島・願船寺が所蔵する安重根の「独立」の書を金館長と李部長が確認。韓国へ遺墨貸し出しの道筋をつけた。



安齋名誉館長、金館長、千家管長
李総務部長、小松理事長、宋教授



京都市・龍谷大学にある遺墨



広島県・安芸高田市願船寺にある「独立」の書



島根県松江市での和譲フォーラム参加者

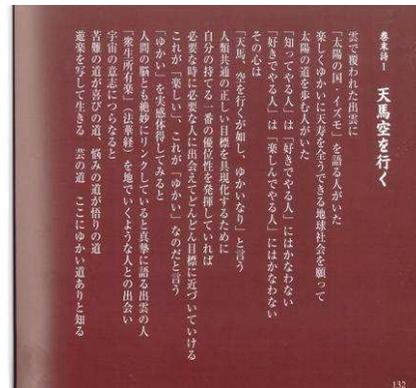


竹岡誠治氏、画家・彫刻家の田淵隆三あきる野美術工房主宰との縁で、かつて中国に向けられていた「有翼核ミサイルメースB基地」であった創価学会沖縄研修道場を訪れ、ミサイル発射台をそのまま残し、田淵氏制作の6体のブロンズ像が建つ「世界平和の碑」を視察した。核ミサイル基地をそのまま人類史に残した施設は平和発信のフォートレス(とりで)といわれている。



「平和と大歓喜の像」前にて

2008年11月発行の画文集「黄鶴楼と壺」にて、「ここにゆかい道ありと知る」と研究所訪問と交流をしるしている。



人間革命之碑

蕭向前 元中日友好協会副会長宅を訪問し、DVD「安重根と伊藤博文」をともに視聴。小松理事長は別れ際に蕭向前先生の手を握り「ドイツを超えます」と力強く伝えた。

その後、中国古典名言録を作成した研究者が学苑出版社に集まり、博士、修士など中国の知識人十萬五千人で構成する九三学社の邵鴻副主席が出席される中で座談会が開催され、当研究所は国民国連構想について発表。



蕭向前先生のご自宅訪問の様子



学苑出版社での座談会の様子

混迷の時代、出雲から陽が昇る

「中日韓英四力国語によるグローバル時代の人間学 中国古典名言録」と、研究所理事長の内藤止中島根入子名誉教授による「竹島＝独島問題入門」の出版を記念し、「竹島の日」を生かすとの視点から、中国の学苑出版社より孟白社長、馬紅治編集長、張可喜新華社通信元東京駐在の参加を得て、第四回目の竹島の日にあたる2月22日、松江市のくにびきメッセに700人が集まり、出版記念講演会「混迷の時代、出雲から陽が昇る」を開催した。



演題と会場の国旗掲揚場には六カ国協議参加国すべての国旗を掲げた

四カ国語による中国古典名言録は島根県内すべての中・高・大学に贈呈された



混迷の時代、出雲から陽が昇る

出版記念
日中韓英 四力国語対訳
中国古典名言録
竹島＝独島問題入門

発行人 小松昭夫
著作内藤正中



張可喜
中日経済文化交流協会北京事務所長
元新華社通信記者



孟白
中国北京学苑出版社社長兼編集長、九三学社中央委員会委員
責任編集



馬紅治
中国北京学苑出版社立命館大学国際関係学部教授、国際平和ミュージアム名誉館長



安齋育郎
宮城県東原市曹洞宗大林寺住職
元朝日新聞記者



齊藤泰彦
作家、日本ペンクラブ会員、島根県立大学総合政策学部教授



豊田有恒
弁護士、日弁連司法独立委員、グリーン支援助もとの会代表



戸塚悦朗
弁護士、国際人権法政策研究所事務局長
龍谷大学大学院教授



安田壽子
特定非営利活動法人女性と子どもの民間支援みもとの会代表



渡部通恵
元小学校教諭
アフガン寺子屋プロジェクト代表



坂本 蔵
元島根医科大学助教授、島人間自然科学研究所理事



小松昭夫
島人間自然科学研究所理事長、小松電機産業 代表取締役

◎講演会 8:50～14:20

- オープニング映像
- 21世紀の新たな民主資本主義 地方発の政党と国民国連構想
- 世界の現状と、中国古典名言録の意義
- 安重根義士と日本人看守の秘話
- 休憩 12:00～13:00 ——
- 歴史問題に関する対立の性格と解決の方向性について平和学的考察 平和博物館の役割とあり方

◎シンポジウム 14:30～16:00
国民国連構想と朝鮮半島と日本列島の役割

◎分科会 16:10～17:30

- 第1分科会 尊厳の命から未来をひらく
- 第2分科会 日本の改革は司法改革から
- 第3分科会 古代日本と遷来人
- 第4分科会 人は人によって生かされる ～ 平和の上に

2009年 期日 **2月22日** 受付 8:00～

場所 **くにびきメッセ国際会議場** (参加費 無料)

松江東急イン(懇親会) 受付18:00～ (参加費 5,000円)

・懇親会の食事はすべてマクロビオティック料理を準備しております。

財団法人 **人間自然科学研究所**

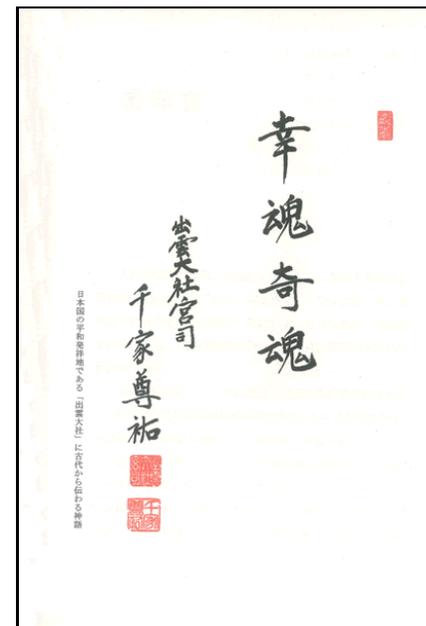
http://www.hns.gr.jp E-mail: webmaster@hns.gr.jp
TEL 050-3161-2490 FAX 050-3161-3846 (0852-32-3620)
担当: 小谷・堀江・藤井・川中・伊原峻・徐佳・上田
協力: 太陽の会・小松電機産業・大島勝・南米子プリント社・朝アーク工業所
南八雲自動車・センコン物流・テクノコーディング・機ジエヌ・機ダイヤキョウ

◇中国古典名言録出版

出雲大社の神語「幸魂奇魂」を千家尊祐宮司様に頂き、日中韓英の四ヶ国語で、グローバル時代の人間学「中国古典名言録」を、北京の学苑出版社で編纂した。



表紙



千家尊祐宮司様
直筆の「幸魂奇魂」

巻頭言

人類は、核拡散、温暖化、金融混乱、健康不安など地球規模の危機に直面し、「衰退か進化か」の分水嶺に立たされています。環境・健康という根源的問題に世界規模で取り組むためには、歴史の中で生まれた国家・民族間の怨念を昇華し、話し合いのできる強固な平和の基盤を創ることが必要です。

北東アジアには二十世紀の戦争の残滓が色濃く残っており、今も加害国と被害国の間では反感と不信が再生産され続けています。この地に縁のある人々の見識に、人類の未来が係かっているといっても過言ではありません。

加害の歴史をもつ日本国と、国連常任理事国であり被害の歴史をもつ核大国の中華人民共和国から、被害の歴史をもつ大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国と、国連常任理事国であり核大国の、アメリカ合衆国、ロシア連邦に呼びかけ、和

議、和諧の平和事業を興し、朝鮮半島と日本列島を世界恒久平和の発祥地にするときです。この事業が動き出せば、対立にあえぐ紛争地帯の国民に、勇気と希望をもたらすでしょう。

この名言集は、数千年にわたって引き継がれた人類の至宝である中国古典から、今日的課題の「平和・環境・健康」に関する名言を抜粋し、中日朝英の四ヶ国語で編纂いたしました。本書の発刊を契機に、飛躍的に発達した科学技術と情報通信網により、叡智の生まれる議論の輪が世界に広がり、「対立の文化」から「共生の文化」への止揚が始まることを願っています。

出版にあたり、学苑出版社と各国関係者のご尽力に対し、深甚なる感謝の意を表します。

財団法人 人間自然科学研究所

理事長 **小松昭夫**

2009年9月 ロシア ウラジオストク・ハバロフスク訪問・献花

第二次世界大戦で2000万人が亡くなったロシアに、22名の訪問団を派遣。
慰霊碑、日本人墓地、シベリア慰霊平和公苑を訪問し、献花した。



ハバロフスク第二次世界大戦慰霊碑に献花



ウラジオストク第二次世界大戦慰霊碑に献花



ハバロフスク日本人墓地に献花



ハバロフスク平和慰霊碑公苑にて



同公苑モニュメント内にて

2009年 9月 ロシア・ウラジオストク 戦争体験者との意見交換会



戦争体験者の方々、盛んに意見交換が行われた



訪問団22名とともに記念撮影

22名のロシア訪問団は、ウラジオストク市内で戦争体験者4名と懇談した。どちらも気象専門家として第二次大戦中に軍務につき、うち女性のエレーネさんは戦争当時サハリンに在住。日本人引揚を目撃した。男性からは「なぜ女性の参加者は少ないのか。この前ウラジオストクに寄港した米国の海軍巡視船には女性の中将が乗っていた。日本はこの点では遅れている」と指摘をいただいた

。

2009年9月 『中国文化の多元的構成と変異-中国古典名言録』出版検討会

九三学社、学苑出版社の主催により北京にて「グローバル時代の人間学 中日韓英四カ国語による中国古典名言録」の出版を記念して出版検討会が開催された。韓敬徳九三学社中央委員会主席と交流、孟白学苑出版社社長、朱成山南京虐殺記念館館長、元中国画報の邢雁先生、張可喜新華社元東京駐在記者などが出席、それぞれ意見発表した。



韓敬徳 九三学社中央委員会主席



朱成山南京記念館管長



金美正氏、小松理事長、孟白社長、黄名誉教授、
魏理事、小谷事務局長(左から)



孟白学苑出版社社長



小松理事長



それぞれ古典名言録を手に検討会に入った

2010年6月 安重根義士遺墨「獨立」日本初公開

金容雲・日韓併合100周年記念講演大学教授

6月15日 広島県日韓親善協会の要請を受け、広島県の願船寺で保管されている安重根義士の遺墨「獨立」を研究所が紹介、広島市内で開かれた同協会の総会で日本国内で初めて披露された。総会には金容雲檀國大学韓国数学文化研究所長が日韓関係について「20世紀のルサンチマン(怨念)を、21世紀のルネッサンスへ」と講演した。



総会には在広島韓国総領事など要人が出席した



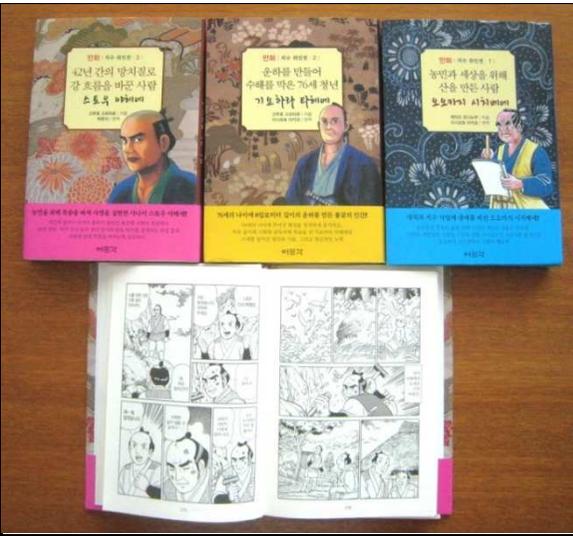
遺墨「獨立」とともに講演する金容雲氏



来賓として出席した小松昭夫理事長  08.09 M.K-6

2010年7月 小松電機産業株式会社ソウル支社開所式、門番Gシリーズ発表会 韓国語版「治水の偉人伝」漫画出版記念式典

「治水の偉人 周藤彌兵衛 清原太兵衛 大槻七兵衛」の韓国語版漫画の同時出版、ソウル支社の開所、韓国における門番Gシリーズの発表を合わせ、ソウル市内で記念式典を開催。150人参加。小松理事長に徐英勳大韓赤十字社元総裁(元KBS社長)から、赤十字社名誉章が贈られた。



左より韓国語版漫画「周藤彌兵衛、清原太兵衛、大槻七兵衛」



大韓赤十字社から名誉章を受章



小松理事長あいさつ



ソウル支社



門番Gシリーズを発表



漫画「周藤彌兵衛、清原太兵衛」作者、小室孝太郎先生



「チャングムの誓い」を歌った朴エリさゆ8.09 M.K-8

2010年8月 「核抑止なき安全保障へ」出版援助、潘基文国連事務総長広島訪問を前に、著者ロバート・グリーン イギリス海軍中佐と会談

元イギリス艦隊司令長官情報参謀だったロバート・グリーン氏の著書「核抑止なき安全保障へ」日本語訳出版を、安齋育郎立命館大学特命教授の紹介で研究所が援助。広島平和記念式典に出席するグリーン氏と会談した。グリーン氏の夫人ケイト・デュース氏は、広島での式典に出席した潘基文国連事務総長の軍縮問題顧問であり、研究所の協賛で2008年に京都・広島・松江で開かれた国際平和博物館会議で、ハーグ国際司法裁判所における「核兵器違法判決」について、記念講演をした。



潘基文国連事務総長の広島平和記念式典での献花



小松理事長、安齋教授、グリーン氏、通訳の谷川さん



ケイト・デュース氏



核抑止なき安全保障へ

<著者>
ロバート・グリーン
(前頁のプロフィール参照)

<翻訳者>
大石幹夫
京都大学文学部卒業、英国ブラッドフォード大学平和学博士課程修了。現在、ニュージーランド平和紛争研究センター（オタゴ大学付属の研究機構）客員研究員。アウンサンソーチー著『希望の声』を岩波書店から翻訳・出版。

<出版協力>
小松昭夫
小松電機産業株式会社代表取締役、財団法人・人間自然科学研究所理事長

<編集協力>
谷川桂子 他
国境なき平和のための翻訳者団 (Translators for Peace Without Borders)

また、本書出版の意義に感じて多額の寄付を惜しまなかった財団法人・人間自然科学研究所の小松昭夫さんにも心から感謝したい。同氏は、小松電機産業株式会社の経営者として、軽量高速シートシャッターと環境自動監視システムの普及に取り組みかたわら、今後企業がめざすべき価値は「平和・環境・健康」との理念を掲げ、日本と朝鮮半島と中国の和解と共生、東アジアの非核地帯化などのために積極的に取り組んでいるユニークな経営者である。

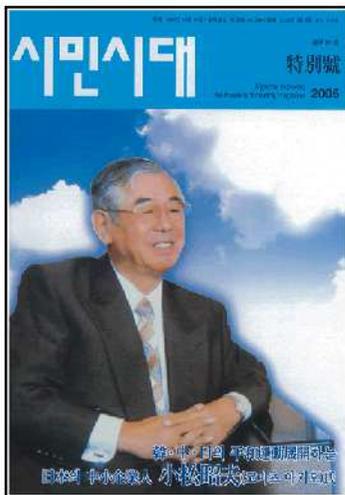
詳細は当研究所のホームページに掲載。

出版物

① 治水の偉人・周藤彌兵衛 1995年
 ② 母なる中海 1996年
 ③ 治水の偉人・清原太兵衛 1998年
 ④ 太陽の國IZUMO 1999年
 ⑤ 魔法の経営 2001年
 ⑥ 論語日中英対訳 2002年
 ⑦ 治水の偉人・大槻七兵衛 2002年

「和而不同」
 島根県松江市枕木山華蔵寺
 住職 松田秀保老師書

小松理事長出演映像・記事



韓国 市民時代
2006年



中国 人民中国
2002年



朝日ニュースター
よみがえれニッポン
全18回シリーズ出演
出演: ばばこういち、小松昭夫
2004年



朝日ニュースター
特別番組
「永遠の隣国として」
出演: 寺島実郎、小松昭夫
2004年

3. 朝鮮半島と日本列島の地政学的役割

朝鮮半島と対岸の日本列島の間には日本海東海呼称問題、竹島独島領有権主張に代表される怨念が、硬直・抑制された状態で今日に続いている。

豊かさを享受しながら、これらの問題に多大なエネルギーと時間を費やす日韓両国及び島根県の光景は、これまで恩恵を受けた国々の人々や、十数億人いるといわれる一日一ドル以下で暮らす人々の目にはどのように映るだろうか。

当研究所では2002年に日本海東海を**中海**に名称を変えることを



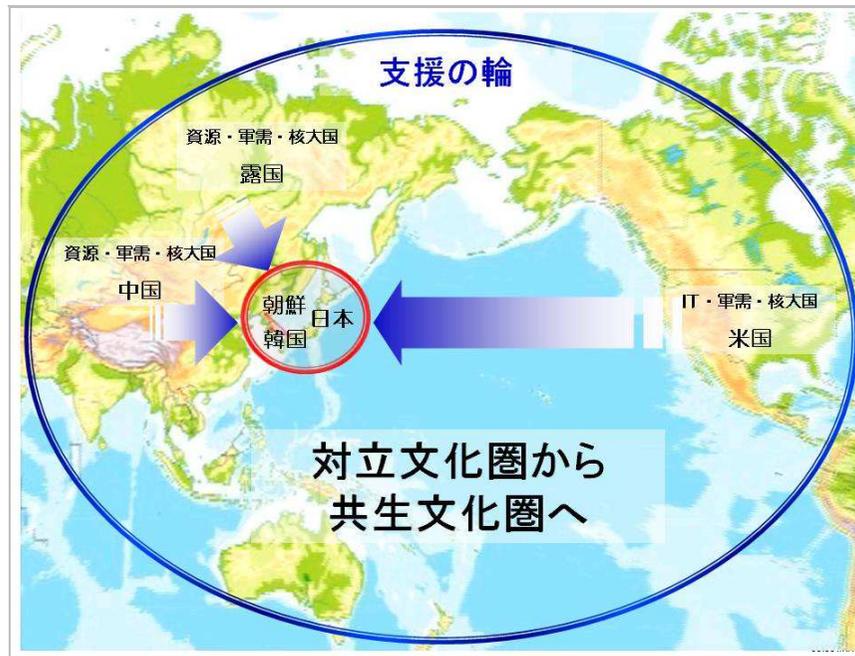
強くなければ生きられない、優しさがなければ生きる資格がない

山陰中央新報
05.3.13,3.17,06.2.4,2.17
08.09 M.K-6

緊張地帯である韓国、朝鮮民主主義人民共和国、その対岸の日本が、米国、中国、露国そして世界の理解を得て、対立と怨念のエネルギーを止揚し、平和の流れを生み出すときである。

人類緊急の課題である地球温暖化に代表される環境問題、そして鳥インフルエンザに代表される健康問題に、国境を越えて取り組む平和事業を人類は必要としている。

朝鮮半島と日本列島の現在の状態は、世界で初めて、結果重視の競争と対立の文化圏を、過程重視の競争と共生が両立する文化圏(オウトピア)に変えるために、最も条件がそろっている地域といえる。韓国李明博大統領は就任早々、日本に対しても環境問題に取り組むことを提案されている。



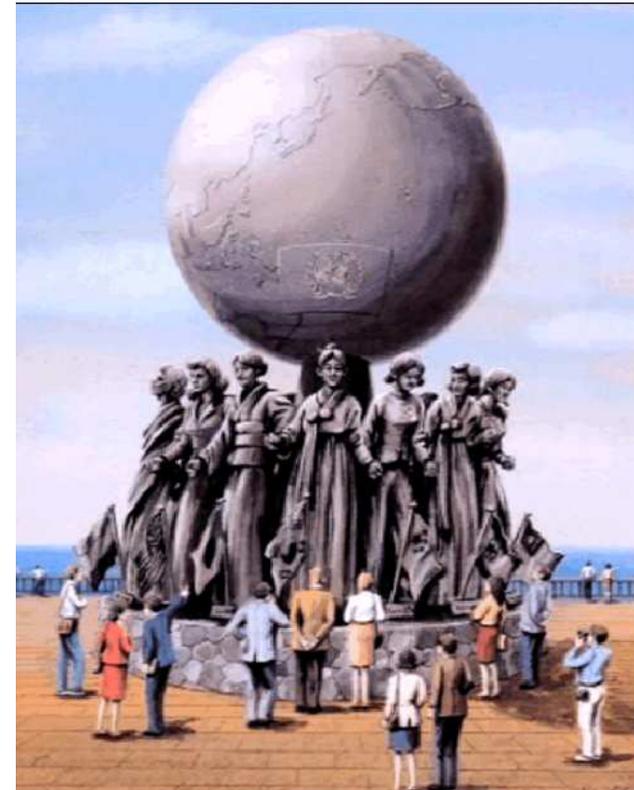
強くなければ生きられない、優しさがなければ生きる資格がない

4. 対立から共生の文化へ

当研究所は、2月22日の「竹島の日を活かし」、朝鮮半島と日本列島を「対立から共生の文化」へ導くため、次の構想を提案する。

(1) 竹島独島地球共生・縁結びの女性像建立

国連が軍隊を編成して戦った唯一の戦争である朝鮮戦争を最後の総力戦にするため、朝鮮半島・日本列島から始まる「対立から共生の文化へ」のシンボルとして竹島独島に参加国の民俗服を着た「地球共生・縁結びの女性像」の建立を1999年に提案している。



地球共生・縁結びの像イメージ

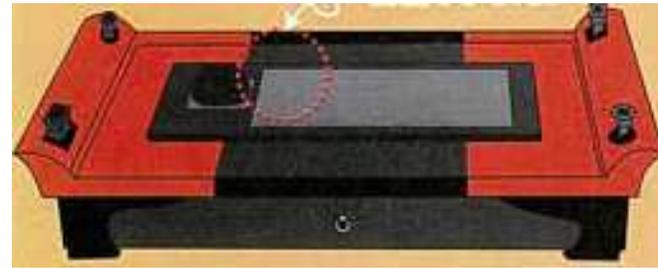
(2) 世界の戦争と平和記念館

世界の近代の戦争について、加害と被害の双方の立場から歴史認識の共有化を図り、世界恒久平和を生み出す施設を、世界の各拠点に建設することを提案する。

- a. 近代の戦争による死者を全て記録することを目指す「メモリアルタワー」
- b. ICT(情報通信技術)でネットワーク網を構築、世界の戦争と平和博物館が、写真と映像で、一か所で見られる「世界の戦争と平和記念館」
- c. 現代科学技術とICTを生かした「和の文化」を生み出す「和の殿堂」

田和山史跡と楽浪郡の硯

1997年、島根県松江市の田和山丘陵で、三重の溝（環濠）を巡らせた弥生前期末頃の遺跡が発見され、漢朝が朝鮮半島北部に設置した楽浪郡の時代（紀元前108年～313年）のものと推定される硯が出土しました。この硯について、当研究所の理事・内藤正中島根大学名誉教授が運営委員長を務める環日本海松江国際交流会議が2002年にシンポジウム「楽浪文化と古代出雲」を開催し、内藤理事と親交のある全浩天・在日本朝鮮歴史考古学協会会長考古学博士が発表を行いました。また、曹喜勝・朝鮮民主主義人民共和国社会科学院歴史研究所所長歴史学博士が「絹と硯を始めとした楽浪遺物を通じて観た楽浪文化の性格と出雲地方への伝播」という論文で紙上参加しました。



楽浪郡の硯



三重の環濠

田和山の山頂部には柱穴があり、神殿のようなものが建ち「祭事」が行われていたことをうかがわせます。「まつりごと」とは即ち「政治」を意味します。そこでは周辺の集落の代表にとどまらず、海を渡ってきた代表も集まり「会議」が開かれ、これが「神在月」「縁結び」の由来となったとも考えられます。

田和山は共感・対立・統合・発展が繰り返される「和の文化」を生み出す覚醒の場であったというのが、当研究所の仮説です。



田和山史跡全景

出雲大社の唱え詞「神語」は「幸魂奇魂守給幸給
(さきみたま くしみたま まもりたまひ さきはえたま
え)」です。これは、神道の「一霊四魂」という考え方
に基づいています。人間の心は「荒魂(あらみたま
=勇。前に進む力)」「和魂(にぎみたま)=親。親し
み交わる力」「幸魂(さきみたま=愛。人を愛し育て
る力)」「奇魂(くしみたま)=智。観察力、分析力、理
解力などから構成される知性」の「四魂」から成り
立っており、これを統括するのが「一霊=神から直
接に下された省みる心」であるとされています。
出雲の「和」の山、田和山で繰り返されたであろう
共感、対立、統合、発展のプロセスは、「四魂」が
様々な組み合わせで覚醒していく過程と見ることも
できるのではないのでしょうか。



上空から見た田和山史跡

直接民主主義・オリンピックの発祥地は

小泉八雲の生まれたギリシア

神在月の出雲は間接民主主義の発祥地

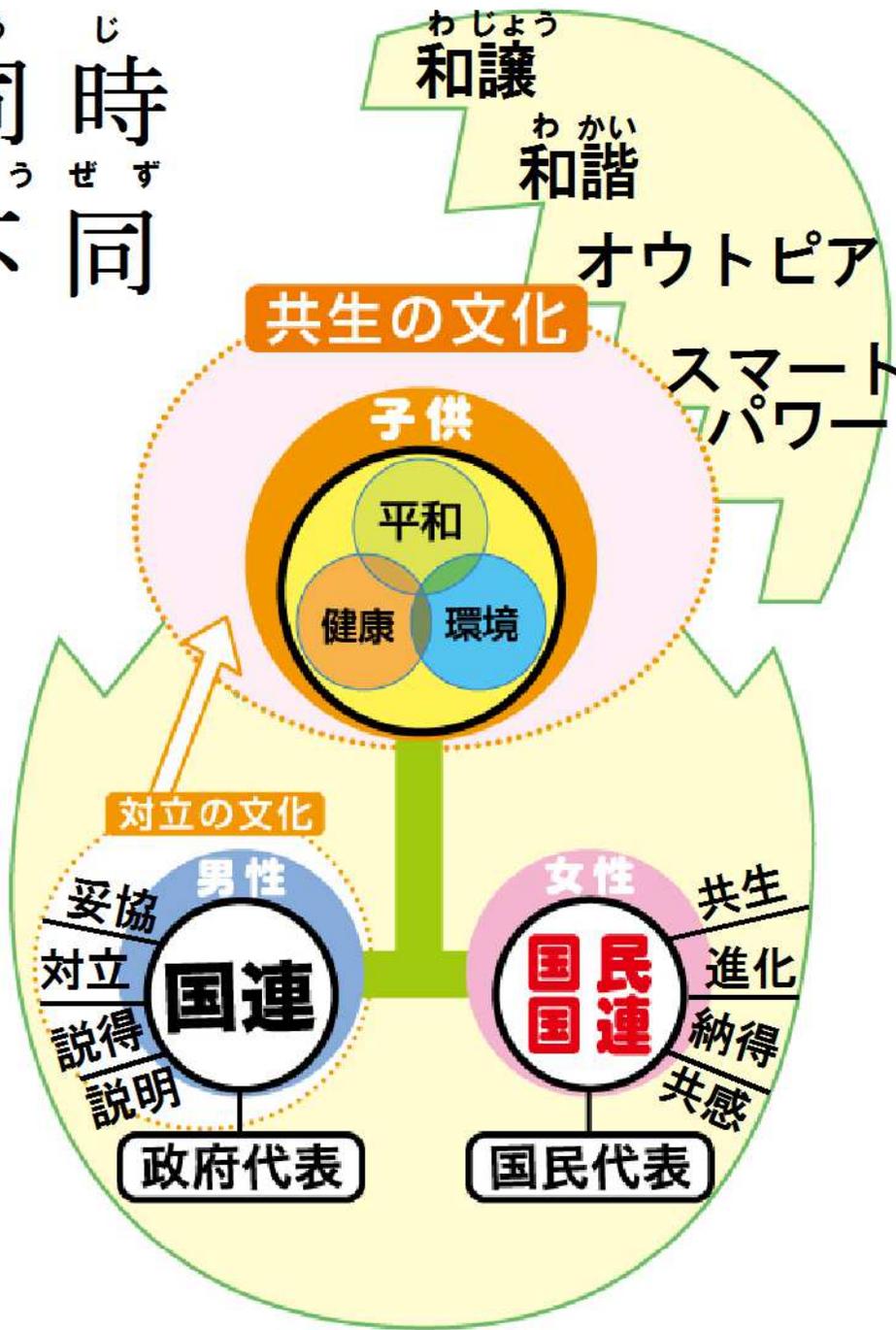
人類の特性から考察、政治・経済・文化の本質を問う

和而不同

世界規模で不透明感が広がるなか、「竹島の日」を活かし、朝鮮半島・日本列島から「対立の文化から共生の文化へ」移行する動きが始まりました。

そっ たく どう じ
 啐 啄 同 時
 わして どう ぜず
 和 而 不 同

第二次世界大戦戦勝国五力国
 を常任理事国として世界平和
 と加盟国の持続的国益を確保
 する為の調整の場



現代平和学を用い、国民の立
 場を生かし、対等で論理的に
 議論することを条件に言論の
 自由を保証、止揚（アウフ
 ヘーベン）を促す場

本プロジェクトに関心のある方は下記までお問い合わせください



財団法人人間自然科学研究所

HP : <http://www.hns.gr.jp/>

E-mail : webmaster@hns.gr.jp

TEL : 050-3161-2490

FAX : 050-3161-3846

作成 : 堀江、川中